
コダマ

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コダマ

【Nコード】

N1196P

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

その日は天気も良く、絶好の行楽日和だった。
久々の休日。

私は紅葉狩りに山へ入ったのだが、運悪く道に迷ってしまった。
私の普段の行いが悪かったのだろうか？

その日は天気も良く、絶好の行楽日和だった。
久々の休日。

私は紅葉狩りに山へ入ったのだが、運悪く道に迷ってしまった。
私の普段の行いが悪かったのだろうか？

しかし、捨てる神あらば、拾う神ありである。
私は一軒の小屋を見つけた。

「すみません。誰かいますか？」

『すみません。誰かいますか？』

小屋の中から女の声がした。

どうやら人がいるようだ。

しかし、もう夕暮れだと言うのに明かりもついてはいない。

おかしいなと思いながら、小屋の戸をノックする。

「すみません。道に迷ったのですけどー」

『すみません。道に迷ったのですけどー』

さつきから女の人の声はオウム返しばかり。

変だなと思うが、他に行くあてなど無い。

私がノブを回すと、ガチャリと戸が開いた。

鍵はかかって無かったようだ。

中を見渡すと誰もいない。

先程から声を返していた女性は、暗闇の中に隠れてしまったのだろうか？

「誰かいませんかー！」

『誰かいませんかー！』

何も無い所から女の声がした。

目を凝らしても何処にも人などいない。

私の背筋に寒いものが走る。

もしかしたらオカルト的なものが目の前にいるのではないか。

そんな考えに辿り着いた途端、急に怖くなってきた。

変な汗が流れるのを感じながら、私は足を少し引いた。

「ふわああああー！！！！！！」

「ふわああああー！！！！！！」

堰を切ったように私は叫びながら、何処へともなく走りだした。

何処をどう走ったのかはわからない。

けれど、どうにか車道に出た。

きつとここから帰れるはずだ。

私は荒い息を整えながら、走って来た道を振り返った。

何も追って来てはいない。

ほっと安堵の息を吐いた。

「一体何だったんだ？」

『さあ、一体何だったんでしょうね？』

背後から女の声がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1196p/>

コダマ

2010年11月25日00時20分発行